

—活動報告—

日本医科大学学生の募金活動について

犬飼 惇

災害チャリティー医学生ネットワーク

日本医科大学医学部第4学年

“Pray for TOHOKU” Charity Drive for Tohoku Disaster Conducted at Ueno Park
by Nippon Medical School Student Charity Network

Atsushi Inukai

Nippon Medical School Student Charity Network

Fourth-year Student, Medical Department, Nippon Medical School

はじめに、この度の震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様へ心よりお見舞い申し上げます。そして被災地の復興が、一日も早く成し遂げられることを祈って、この度の募金活動について筆を執らせていただきます。

去る3月11日、平成23年東北地方太平洋沖地震が発生し、私たちの仲間の家族や知り合いも被災致しました。そのような境遇の中の一人が、この団体を立ち上げた前代表の井上貴博先輩でございます。井上先輩は震災が起こった直後、ご自身が家族や友人と連絡が取れない不安な状況であったにもかかわらず、学生達が所属学年ごとに連絡網で用いるメーリングリストから全学年に、被災地のために上野公園で募金活動を行う提案をなさいました。実はこの活動のメンバーは、日本医科大学の学生のみならず、井上先輩の予備校時代からのご友人が在学していた福島県立医科大学の学生や、井上先輩が所属していた野球部と交友があった東京女子医科大学の学生も井上先輩の考えに賛同して参加して下さいました。もともと日本医科大学にはボランティア活動を行う正式なサークルはないのですが、地震直後とあり各自が何かしらの問題を抱える中、急の呼び掛けにも総勢で60名以上の有志の学生が集まったことは、井上先輩の素晴らしい人柄によるものに違いないからでしょう。この募金活動には非常に多くの仲間が日夜間わず、手伝って下さいました。井上先輩の同級生である伊藤寿彦先輩と片岡達紀先

輩、団体として活動するために自身のボランティア活動の経験を細やかに教えてくれた井野創君、空いている時間すべてを活動に費やしてくれた岡本浩和君と山内豪人君と西牧美幸さんと鈴木静香さん、そして船橋駅でも並行して募金団体を立ち上げた高野竜太郎先輩と杉田洋佑先輩と渡辺祐介君に加え、それ以外にも多くの方々の助けによって支えられました。

今回の活動では街頭の方々に義援金を募る際に一人ひとりが、震災に関わる一人の人間として、また医師を志すものとして、この震災に対する思いを訴える形で活動しておりましたが、私自身は終始自分の中にある矛盾と葛藤に悩みながら声を出していました。それは一緒に活動した福島県立医科大学の存在があったからです。地震に加えて、中には福島第一原子力発電所の放射線問題によってまさに避難して来ていた彼らは、時折嗚咽を我慢しながら、故郷と仲間のために活動をなさっていました。そんな彼らを見て、「助けを必要としているのは被災地の方もこの人たちも変わらないのに、自分は彼らに何ができているのだろうか。」「義援金を募るだけの行為はいずれ限界が来て、時が経ち自身の生活に追われれば、ボランティアの優先順位は下がり、私達の行うボランティア活動自体が偽善にまでなり下がってしまうのではないか。」「人を救いたいという一心で進学したにもかかわらず、医学生という中途半端な立場ゆえ、現地に赴いて人命を救助することもできない。」などと、ついには自分の



写真1 募金活動の様子

今いる状況さえも受け入れられない子供じみた考えに囚われてしまうほど迷っておりました。

しかし、翌日の活動の準備を井上先輩と一緒にしながら、今回のボランティアのことについて話しているとき、井上先輩から「今必要なのは、やらない善より、やる偽善」なのではないかという言葉聞いて、はっとさせられました。その真意は、自分や団体にとってどうあるかではなく、それがどんな形であれ、被災地の復興のためになることをすることが大事であり、またその大小にかかわらず今自分のできることをすれば良いということだと認識しております。実際、活動中

に心ないクレームや野次を何度か受けましたが、中には涙を流しながら募金して下さる方や「20日、上野公園で日本医科大学の学生が桜の木の下で募金活動をしていました。一日も早く日本中の人々が、花がきれいだと思える日が来るようにと、募金しました。」とtwitterやブログなどで密かに賛同して下さる方がいらっしやるのを感じ、今はこの活動が間違いではなかったと確信しております。

この度の活動で本当に多くの義援金を賜うことができました。この活動に関わった皆様に、この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。活動報告につきましては、日本医科大学ホームページのトピックス(<http://college.nms.ac.jp/topic/527.html>)に活動日時や集計金額などが掲載されておりますので、よろしければご覧になって頂けると幸いです。今後、私たちは団体としてだけでなく、個人個人でもこのような活動を続けるとともに、私自身も井上先輩が立ち上げた団体の代表に恥じぬよう頑張ってお参りたいと思っております。

最後に、この地震によって不幸な出来事を被ったすべての方々に、今後それが霞んでしまうくらい大きな幸せが必ず訪れますようお願い申し上げます。

(受付：2011年9月5日)

(受理：2011年9月15日)